

「令和6年能登半島地震」被災地支援で ユニットハウスを寄贈しました

令和6年能登半島地震の被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

能登半島地震被災地支援活動の一部として、当社の連結子会社である「株式会社オオマチワールド(代表取締役社長:鈴木 敦、所在地:宮城県仙台市宮城野区白鳥二丁目30番46号)」が、自社で製造・販売をするユニットハウスを石川県能登町に寄贈し、2024年2月15日に石川県能登町役場前に完成しました。

このユニットハウスは、全国から支援に訪れる自治体職員の皆様が休憩所、宿泊所、会議室等として利用される予定です。

当社グループは、この寄贈を通じて、被災地の復興を支援し、地方自治体の職員の皆様が災害対応に専念できる環境を提供することを目指しております。

皆さまの安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



ユニットハウスの左が能登町役場

▼2月17日にユニットハウス2棟の鍵渡し式があり、北陸中日新聞にその時の様子が掲載されました。

縁 3.11 宮城から恩返し 援 無償でユニットハウス



完成したユニットハウスの前で、鈴木敦社長から鍵を受け取る山口竜次郎さん＝17日、石川県能登町宇出津で

能登町役場前に2棟 企業設置

宮城県の企業が能登半島地震で大きな被害に遭った石川県能登町の役場前に全国からの支援者が使うユニットハウス2棟を設置し、17日に鍵の引き渡し式があった。設置は東日本大震災の際、同町が宮城県巨理町を支援したことが縁。当時、巨理町に派遣された能登町の職員が設置のため、

奔走した。運び込まれた2階建てユニットハウスの前で贈った会社「オオマチワールド」の鈴木敦社長(59)が17日、能登町総務課職員(山口竜次郎さん(47))に鍵を手渡した。鈴木さんは「復旧復興の一助になれば。私たちも被災した経験のある企業。全国からお世話になったの

で恩返しの気持ちもある」と語り、山口さんは「思いを受け取って、建物を使っていきたい」と力を込めた。山口さんは2012年度の1年間、能登町から巨理町に復興支援のために派遣され、土木工事関連の仕事に携わった。能登半島地震の発生直後には巨理町から直接電話を受け、町からの

給水車など3台の受け入れを担った。巨理町の千葉文彦副町長と鈴木社長は以前、同じ銀行に勤めていた。鈴木社長はオオマチワールドがユニットハウスで支援できることを示した資料を給水車隊に託した。支援者が車中や町役場内で寝泊まりを続ける状況への対応を迫られている能登町にとって、通常のプレハブに比べ、現地での工期が短いユニットハウスの支援は渡りに船だった。山口さんが調整し、トラックの調達に時間がかかり当初の予定から約2週間遅れたが、無償での設置に至った。17日は鈴木社長ら同社の3人が町役場を訪れ、大森凡世町長から「町役場の近くにこうした建物があるのは非常にありがたい。有効活用したい」と感謝の言葉を受けた。ユニットハウスは今後全国から支援のため訪れる自治体職員らが休憩や寝泊まり、会議に使つ。(上井啓太郎)

2024年2月18日(日曜日) 北陸中日新聞
この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。